

情報通信審議会情報通信技術分科会

海上無線通信委員会作業班第2回会合 議事要旨（案）

- 1 日時 平成19年12月14日（金）10:00～12:00
- 2 場所 総務省10階 共用1001会議室
- 3 出席者
 - （1）構成員（敬称略）

中村 勝英（主任：水洋会）、安藤 勝美（日本無線（株））、内海 邦夫（水産庁）、大井 清（（社）全国漁業無線協会）、阪井 英太（トキメック（株））、坂口 忠男（古野電気（株））、谷道 幸雄（（社）全国船舶無線工事協会）、田原 孝義（古野電気（株））、遠山 修（（株）ゼニライトブイ）、畠山 仁（海上保安庁）、平林 光雄（太洋無線（株））、細野 雄二（海上保安庁）、山本 泰三（（社）日本船主協会）
 - （2）事務局
坂中企画官、濱崎課長補佐、松井海上係長
- 4 議事概要

議事次第に基づき、中村主任から開会の挨拶、事務局から配付資料の確認、前回議事要旨の確認があった。

 - （1）簡易型 AIS について

事務局から、資料 50-作 2-2-1～5 に基づき、AIS Class-B (CS) の認証に関する国際動向、簡易型 AIS に関する国際機関の技術基準一覧に関して説明が行われた。続いて、田原構成員から、資料 50-作 2-2-6～7 に基づき、AIS Class-B (CS) の技術基準案について説明が行われた。続いて、遠山構成員から、資料 50-作 2-2-8 に基づき、簡易型 AIS の日本語メッセージ表示について説明が行われた。

その際、構成員から、以下のような意見が出された。

 - 小型船舶等ユーザーの立場を踏まえると、表示器は、日本語メッセージ表示機能を付す等分かりやすいものとなるよう努める必要がある。
 - 日本語メッセージ機能を AIS 装置そのものへ組み込むより、表示器のコードへ組み込む方が得策と思われる。
 - 無線従事者資格を検討、整理する必要がある。
 - （2）小型船舶救急連絡装置等について

事務局から、資料 50-作 2-3 に基づき、海上無線通信委員会作業班WG 第 1 回会合議事要旨について説明が行われた。続いて、平林構成員から、資料 50-作 2-4-1~2 に基づき、小型船舶救急連絡装置の技術的条件及び船員用救急発信器の仕様について説明が行われた。続いて、事務局及び大井構成員から、資料 50-作 2-4-3 に基づき、小型船舶救急連絡システムの運用条件について説明が行われた。続いて、坂口構成員から、資料 50-作 2-4-4~5 に基づき、小型船舶位置情報伝送装置の概要及び技術基準案について説明が行われた。

その際、構成員から、以下のような意見が出された。

- 船員用救急発信器の仕様に関して、送信データの ID 番号、送信間隔（パターン）の関係を確認したい。
- 船員用救急発信器から小型船舶への通信で用いる電波の扱いを、特定小電力もしくは微弱電波とする技術的根拠データが必要。以前に行った実験によると、船員用救急発信器と小型船舶との距離が 100~200m においても、微弱電波による通信が可能であった。
- ユーザーの立場を考慮すると、救急連絡装置と位置情報伝送装置における通信フォーマットを合わせる必要がある。その場合、信号の桁数（総ビット数）を固定して使用しない部分はゼロ信号とするなどの方法が考えられる。
- 無線従事者資格を検討、整理する必要がある。

（3）今後のスケジュール

事務局から、今後のスケジュールについて連絡があった。

【配付資料】	【表 題】
資料 50-作 2-1	海上無線通信委員会作業班第 1 回会合議事要旨（案）
資料 50-作 2-2	簡易型 AIS 関連資料 AIS Class-B (CS) の認証に関する国際動向 47 CFR Part 80 Subchapter D RTCM Paper 173-2006-SC121-DIST RTCM Paper 107-2007-SC121-DIST 簡易型 AIS に関する国際機関の技術基準一覧 GSTDMA 方式クラス B AIS の技術基準案 AIS6 章 6_1_修正版 簡易 AIS (Class-B AIS) 日本語メッセージ表示について AIS Class-B (CS) の認証に関する国際動向
資料 50-作 2-3	海上無線通信委員会作業班WG 第 1 回概要
資料 50-作 2-4	小型船舶救急連絡装置等関連資料 小型船舶救急連絡装置の技術的条件（案） 船員用救急発信器の仕様 小型船舶救急連絡システムの運用条件 小型船舶位置情報伝送装置の概要 小型船舶位置情報伝送装置の技術基準（案）
資料 50-作 2-5	今後のスケジュール